

# 国語科学習指導案

指導者 槇田 有香

1 日 時 平成24年11月19日（月）

2 学 年 第3学年1組 23名 [3年1組教室]

3 単 元 名 「なるほどザ世界の家ブック」をつくろう  
(学習材：世界の家のつくりについて考えよう  
「人をつつむ形ー世界の家めぐり」 東京書籍 3年下)

## 4 単元設定の理由

- 本単元は、小学校学習指導要領第3学年及び第4学年の「C読むこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には以下のように示されている。

(1)イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。

エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり、要約したりすること。

本単元は、文章に書かれている内容をとらえ、家のつくりと気候や人々のくらしとを関係付けて読むことを学習していく。教材文「人をつつむ形ー世界の家めぐり」は、写真家小松義夫さんが世界中を旅して出会った様々な面白い形の「家」を、撮影した写真と文章で説明・解説した作品である。「人をつつむ形」という題名にもあるように「人がいて家があるという風景」を撮影し、家はその土地の材料を使い、風土（気候・地質）に合わせて、人々のくらしに便利ないようにつくられていると述べている。

冒頭の序論では、話題と具体例、結論が提示され、筆者の考えを受けて、本論に三つの事例が並ぶという頭括型の文章構成となっている。本論では、「ざいりょう」「気候」「人々のくらし」という三つの観点で書かれているため、それぞれの家の比較がしやすい文章である。また、西山晶さんの大きな挿絵が掲載され、その家で暮らす人々のくらしを、より具体的なものになっている。ここでは、モンゴル・チュニジア・セネガルの家について、三つの観点をもとに図式化しながら読み取っていく。最後に、自分が興味を持った世界の家のつくりの工夫について、その土地特有の条件を理由として関係付けて説明する「なるほどザ世界の家ブック」作りをする。

これらの学習を通して、知的好奇心を刺激し、多面的なものの見方を育てるのに役立つと考えられる。

- 本学級の児童は、日常的に読書に親しんでいる。物語だけでなく、図鑑や科学的な読み物にもふれており、読書の幅は広い。また、1年生から国語辞典の引き方を学習し、言葉の意味を調べることに関心をもっている姿がみられる。

1学期の説明的な文章「自然のかくし絵」では、キーワードに気を付けて、段落ごとに書かれている内容を読み取ることを目標に、説明的な文章の構成を学び、文章構成が大きく分けて、話

題提示・問いの文・説明・例を挙げる・まとめから成り立っていることを学習した。「『ほけんだより』を読みくらべよう」では、文章をはじめ・中・おわりの3つに分け二つの文章の共通点と相違点を文章構成から気づかせる学習をした。さらに2学期では、「もうどう犬の訓練」を学習し、何がどういう順序で書かれているか、段落の内容を読み取る学習をした。説明の部分では、順序を表す言葉である「さいしょは、次に、…」、「でも」「ですから」「このように」といった接続詞が使われていることを知り、もうどう犬になるまでの訓練を読み取る学習をした。このようにして、文章を読み取りながら、これらの言葉を用いることが、説明的な文章を書く手がかりになることを学び、また、写真が効果的に使われていることで、より具体的に文章の内容を理解することもできた。

この単元では、教材文の読み取り後、興味をもった世界の家のつくりの工夫について小松義夫さんの他の著書や関連のある本などで調べて、必要な文と言葉を読み取り文章を明確にし、「世界の家めぐりブック」を作らせる活動をする。これまで、「もうどう犬の訓練」では、それぞれの段落の中にある大事な言葉や文を使いながら書かれている内容を短くまとめる学習をしたが、児童にとって事柄の順序を考えながら文章をまとめることは、初めての学習となる。

- 指導にあたっては、児童が教材文に興味をもち、意欲的に世界の家について調べ、「なるほどザ世界の家ブック」に進んでまとめていけるように次の4点を工夫する。

第一に、自分たちがつくった「なるほどザ世界の家ブック」を1、2組お互いにプレゼントし合うというめあてをもたせる。また、児童に教材文に使われている「世界の家」に関心を持たせるために、教科書の写真だけでなく、小松義夫さんの他の著書や関連のある本を集めて教室に置いておき、児童がいつでも手にとって読むことができるようにしておく。

第二に、「中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読む」の手立てとして、家の形を読み取らせるとともに、家の「ざいりょう」「気候」「人々のくらし」のそれぞれが書かれている文を色分けして線を引かせる。

第三に、教材文を読み取る時に「ため」「ので」「から」などの接続助詞に着目させ、3つの観点のいずれかを使って、家のつくりとの関係を明確する。また、文章だけでなく挿絵や写真にも目を向けさせ、それらが文章にはない情報を伝えることがあることに気づかせたい。

第四に、写真家小松義夫さんの著書などに書かれている説明文から大事な言葉や文を書き抜き、「なるほどザ世界の家ブック」にまとめていく手立てとして、ワークシートの中央に家のつくりがわかる写真を貼り、そのまわりに教材文を読んで「ざいりょう」「気候」「人々のくらし」がわかる言葉や短文を書かせる。そして、下の段では、吹き出しの言葉や短文を使って順序に気を付けながら書かせる。教材文で使うワークシートと「なるほどザ世界の家ブック」にまとめるシートは同じ形式にして、教材文で学んだ構成を生かせるようにする。

## 5 研究主題との関わり

### (1) 扱う言語活動例

記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること。 (読むこと 言語活動例イ)

### (2) 言語活動を充実させるための指導方法の工夫

「世界の家」に関する本を集めて教室に置いておき、児童が世界のいろいろな家のつくりに関心をもてるようにする。また、友だちに分かりやすく伝えるために、「ざいりょう」「気候」「人々のくらし」を意識して本を読ませるようにする。

## 6 単元の目標

- 世界の家のつくりに関心を持ち，文章や挿絵，写真を手がかりにして，進んで家のつくりの工夫について考えている。 【国語への関心・意欲・態度】
- ◎ 世界の家のつくりと気候や人々のくらしを，文章や挿絵，写真から関係付けて読み取っている。 【読むこと イ】
- 世界の家のつくりと気候や人々のくらしを関係づけて読み取り，書かれている内容を短くまとめながら読んでいる。 【読むこと エ】

## 7 単元の評価規準

	国語への関心・意欲・態度	読むこと
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>○世界の家のつくりに関心をもって読み，気候や人々のくらしとつなげて工夫されていることを考えている。</li> <li>○紹介したい世界の家のつくりについて，工夫やその理由を意欲的にまとめている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○世界の家のつくりと気候や人々のくらしを，文章や挿絵，写真から関係付けて読んでいる。</li> <li>○世界の家について，大事な言葉や文を押さえ，書かれている内容を短くまとめながら読んでいる。</li> </ul>
学習活動具体の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>○世界の家に対して興味をもっていろいろな本を読んで，紹介したい世界の家について気候や人々のくらしとつなげて考えている。</li> <li>○世界の家のつくりについて，工夫やその理由を考えて，意欲的に「なるほどザ世界の家ブック」にまとめている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教材文に書かれているそれぞれの家について正しく読み取り，「形・ざいりょう」「気候」「人々のくらし」を関係付けて家のつくりのくふうを考えてまとめている。</li> <li>○小松義夫さんの著書等から必要な言葉や文を読み取って「なるほどザ世界の家ブック」にまとめている。</li> </ul>

## 8 指導計画（全10時間）

次	学 習 活 動	評 価			
		関	読	評価規準	評価方法
一	特徴ある日本や世界の家のつくりについて興味をもつ。 教材文や挿絵，写真から世界の家のつくりや気候，人々のくらしとの関係について関心をもって教材文を読む。 (1)	◎	○	○ 説明文を通読して，世界の家の不思議について思ったことを感想に書いている。	行動観察 ノート
二	文章をまとまりごとに分け，段落と段落の結び付きを考える。 (1)		○	○ 具体例を紹介する前と後のまとまりの結び付きをとらえて，文章の構成を考えている。	行動観察 ノート
三	前半のまとまりを読み，筆		○	○ 世界の家のつくりについての筆	

	者の伝えたいことを中心を読み取る。 (1)			者の観点を読み取っている。	
四	モンゴル, チュニジア, セネガルの家のつくりを考える。 (4, 本時3/4)		○	○ それぞれの家のつくりについて3つの観点に関係付けて読み取っている。	行動観察 ワークシート
五	調べた世界の家のつくりについて考えたことをまとめて説明する。 (3)	○	◎	◎ 小松義夫さんの他の著書や関連のある本等から必要な言葉や文を読み取って「なるほどザ世界の家ブック」にまとめている。 ○ 世界の家のつくりについて, 工夫やその理由を考えて, 意欲的に「なるほどザ世界の家ブック」にまとめている。	行動観察 「なるほどザ世界の家ブック」

## 9 本時の展開

### (1) 本時の目標

「セネガル」の家のつくりについて, 説明文や写真から, その「ざいりょう」「気候」「人々の暮らし」を関係付けて読み取り, 簡潔にまとめることができる。

### (2) 観点別評価規準

◎ 「セネガル」の家のつくりについて, 説明文や挿絵, 写真から「ざいりょう」「気候」「人々の暮らし」について読み取っている。 [読むこと]

○ 「セネガル」の家のつくりについて説明されている文章を読んで, 「ざいりょう」「気候」「人々の暮らし」を関係付けて考えてまとめている。 [読むこと]

### (3) 本時のポイント (言語活動)

「セネガル」の家のつくりについて説明文や挿絵, 写真から大事な言葉や文を読み取り, 「ざいりょう」「気候」「人々の暮らし」を関係付けて簡潔にまとめる。

### (4) 準備物

「セネガル」の家の写真や図の掲示物, マングローブの写真, 色別観点カード, じょうご, わら, ワークシート, 付箋紙 (ブルー・ピンク), 本文の掲示物

### (5) 本時の展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準 (評価方法)
1 本時のめあてを知る。	○本時の学習のめあてを確認する。 ○既習の二つの国について観点をはっきりさせてまとめた物を掲示しておく。	
「セネガル」の家のつくりについて読み取ったことをまとめよう。		

<p>2 セネガルの家のつくりを3つの観点から読み取って発表する。</p>	<p>○「ざいりょう」「気候」「人々のくらし」の3つの観点を確認する。</p> <p>○最初に家のつくりについて書かれている部分にサイドラインを引き観点ごとにワークシートにまとめさせる。</p> <p>○じょうごやわら、マングローブの写真を見せ、具体的なイメージをもたせる。</p>	
<p>3 「セネガル」の家のつくりの工夫を考える。 (個人→ペア→全体)</p> <p>4 「セネガル」の家についてまとめる。</p> <p>5 友だちとお互いのまとめを交流する。</p>	<p>○家のつくりの工夫について、3つの観点を関係付けて考えて、「セネガルの家は、～いる。それは、○○だから(ため)だ。」と理由も言わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋根がじょうごの形をしている。それは、井戸をほってもしおからい水しか出ないため雨水を家の中に取り込んで飲み水しているからだ。</li> <li>・マングローブのみきを使って屋根を支えている。それは、マングローブが近くにたくさん生えているからだ。</li> <li>・屋根にわらを使っている。それは、田で米作りをしてわらが手に入るからだ。</li> </ul> <p>○3つの観点を関係付けてまとめさせる。</p> <p>○3つの観点を入れてまとめているか考えながら友だちのまとめを聞かせる。</p>	<p>○セネガルの家のつくりについて3つの観点を関係付けてまとめている。 (ワークシート)</p>
<p>6 本時の学習を振り返り、次時の学習の確認をする。</p>	<p>○本時の授業について、「他者視点」「自己モニター」の視点で振り返り、付箋紙(ブルー・ピンク)に記入させる。</p> <p>○次時は、教材文にはない世界の家について調べて、気候や人々の生活を関係付けて考えて「なるほどザ世界の家ブック」にまとめることを伝える。</p>	